

3299 欧州 88 夢紀行：空港 通関

当時、ポーランド・ワルシャワの空港は、旧共産圏というイメージが強く、危険な国という印象が消えなかった。

ポーランドからチェコへ。チェコへは、その後、2度訪ねている。

ワルシャワ、手荷物検査も軍服の係官がチェック。高圧的で、最後まで安心が出来なかった。

というも、ポーランド空港（LOT）飛行機が予定の出発時刻に出発しない。

英語の話しそうな人を見つけて尋ねた。飛行機のやりくりができないらしい。実に不安である。

待合室での不安。最後の最後まで相性悪く、神経が、いらつく国だ。

何の変更の表示も出ない。待合室の人も不安気である。1人でないのが、少し安心だが、顔も違う、多様な人種。

係官が来ていないのでわからないとの返事。一体どうなっているのか、不安は最高潮。

やがてアナウンス。ゲートナンバーが、①から⑤へ変更。言葉より自分で確認、積極的な考動が大切と動いた。正解。

間一髪でセーフ、ポーランド航空の飛行機が手配できないため、チェコの飛行機が迎えに来た。

不安感と期待感が交差。慣れている人は、大丈夫だろうが、この時、ポーランドは初訪問。事件遭遇で印象は最悪。

言葉の壁も大問題。結果、まずまずの成果があがったが、出国時も、かくの如し。

座席に座った時の安心感。小さなプロペラ機、チェコ航空。12時10分離陸。約2時間の遅れである。

座席は、左右2席ずつ。エンジン音が心もとない。無事に到着できることを、心から願った。

チェコプラハに到着した時、乗客が万歳、他の人も同じ不安な気持ちだったのだろう。子供の笑顔が印象に残った。

こうした体験は、何度もあった。一例として。

スイス・ジュネーブから、フランス・ニースへの飛行機が飛ばないという（キャンセル）。一日2便。

午前と午後の出発便。乗客が少なかったためなのか、午後の便、現実、乗客が少なかった。

到着した時には、真っ暗。宿探しに苦労した記憶がある。なにしろ、カメラ機材始め、荷物は尋常ではなかった。

中米、ロスアンゼルスから、コスタリカへの移動、各駅停車ならぬ、各国経由。

コスタリカの空港名を忘れた。日本から19時間不眠。機内でさすがに眠ってしまった。ざわつきで目が覚める。

到着と錯覚、出国。どうもイメージが違う。エルサルバドルだった。

その時は、運良く引き返し、飛行機に乗ることができた。地球一人、冒険の旅。いろいろあった。

その後、2度のチェコ訪問は、素敵なお国との印象がある。特に好きなカレル橋界隈。

しかし、この時は、中心街でも軍人や警官が目につき、気を引き締めた。

日本でレンタカーを予約。営業時間内に確保、まず一安心。今回、荷物は多いうえに、長期間の旅である。

列車での旅も体験したが、6人のコンパートメント、一人旅。トイレタイムに荷物を盗られる危険。

その後、レンタカーの一人旅にきりかえた。食料も備蓄できる。プラハでは、予算オーバーだが、四つ星の宿を確保。

車も安心。地下鉄一日券を購入。Aラインの地下鉄、やはり、視線が気になる。

カレル橋とチェコ軍団橋、ヴァルタヴァ川、その他、下調べや現地の資料を確保。暗くなる前にホテルへ。

ホリディイン、宿で夕食。チェコビール、スープ、ポークパスタ、ケーキ、珈琲、

今日は安心してゆっくり静養したい。気持ちも切り替えて、明日に備えたい。旅の作戦も必要。

翌日、朝7時から行動開始。プラハ市内を午後3時まで、8時間、散策。日頃から自動車移動で

足腰が弱っている。カメラ類など荷物も重く、足の裏に、また、豆ができた。今日も地下鉄一日券を購入。

防犯も大切。ワルシャワと比較すれば、チェコ、プラハの相性は、悪くない。

今、旅は始まった所だし、厳しい環境からのスタートで良かったと思う。

小心でも、場数を踏めば度胸もつく。目も慣れてくる。しかし、油断大敵。頑張りたく思う。

懲りていない証拠。一人旅、冒険旅の魅力かもしれない。

チェコから、スロバキア、ハンガリーへの道中になると思う。絵葉書を友人に書こう。

厳しい環境になると、日本も恋しくなる。まだ、10日も経っていないのに困ったものだ。今からが本番の旅。

下記は、チェコの足跡地図と地下鉄一日券？

